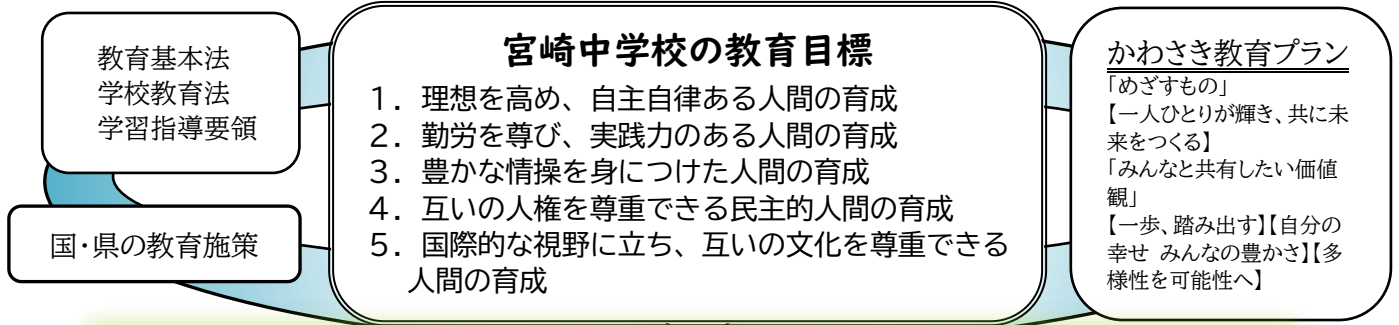
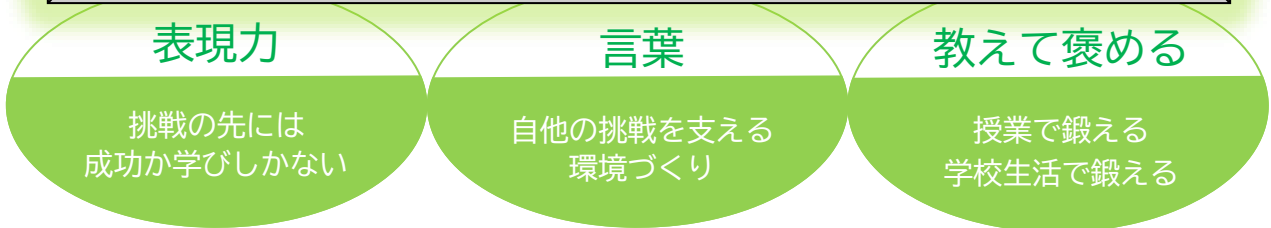


川崎市立宮崎中学校いじめ防止基本方針

1 令和8年度 川崎市立宮崎中学校グランドデザイン（学校経営計画）



生き抜く力の涵養 ～つながりを軸とした教育の推進～



[授業力向上] 学習支援・不登校支援	[心を育てる] 自己肯定感の向上	[安全危機管理] 健康・安全	[地域連携] 地域とともに生きる
<ul style="list-style-type: none"> ◇つながりの視点からの授業改善 ◇主体的・対話的で深い学びの実装 ◇個別最適なオーダーメイドの支援教育 	<ul style="list-style-type: none"> ◇自他の生命とつながりを尊重する心の育成 ◇自尊感情・思いやりを育む教育活動の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ◇生命・健康・安心・安全第一をベースにした教育活動の展開と充実 ◇危機管理と防災教育・食育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ◇家庭・地域・社会とのつながりを生かした学校づくり ◇PTA・学校運営協議会の運営 ◇宮中会

具体的方策

<ul style="list-style-type: none"> ○主体的に学ぶ方策として授業に見通しと振り返りの時間を組み入れる ○指導と評価の一体化による生徒が「わかる」と実感できる授業の実践 ○学習支援を必要とする生徒の把握と個々の状況に合わせた支援体制の整備 ○支援教育の推進と学習室（CD教室）の利活用 ○個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実からの授業改善 ○基礎基本の学習内容の定着と学習会等の充実 ○深い学びにつながるGIGA端末の活用 ○授業のユニバーサルデザイン化 ○全員一律を見直し、オプションを充実させる工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ未然防止・早期発見、早期対応・校内いじめ防止対策会議の充実 ○丁寧な関わりとチームとして連携した取組の実践 ○問題を未然に防ぐ積極的生徒指導の推進 ○道徳教育の計画的な実践 ○主体的な生徒会活動 ○心理的安定性の向上 ○意図的・計画的な発達段階に応じた指導の展開 ○情報モラルの指導 ○キャリア在り方生き方教育・レジリエンス教育・人権尊重教育の実践 ○共生*共育プログラムやSOS出し方受け止め方教育の有効的な活用 ○教育相談の工夫と充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○3年間を見通した健康・安全・防災教育の実践 ○熱中症の理解と適切な予防対策の実践 ○感染症等の感染拡大予防と流行時への対応策の準備 ○危機管理の点検と改善 ○定期的な安全点検の実施と不良個所の改善 ○地震・土砂災害等への実践的な防災教育の取組 ○火災・地震等による避難訓練の実施 ○ガイドラインに則した安全な部活動の運営 ○学校給食全般の進捗管理(含アレルギー対応) ○食育の指導 ○保健だよりの発行 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校運営協議会（コミュニティスクール）の運営 ○積極的な学校の取組の公開（学年、学級通信、学校公開、授業参観、説明会等） ○学校HP、配信メールミマモルメの有効活用 ○小中連携行事の実践 ○PTA活動の参加協力 ○学校評価アンケートの実施と改善 ○地域教育会議への協力 ○宮中フェスティバル・あったかまつり ○外部諸機関との連携 ○避難所運営会議への協力 ○外部人材・地域の教育力の効果的な活用
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

働き方改革の推進（業務改善と意識改革）・職員研修の充実（各種研修会、OJT研修、要請訪問等）

2 「学校いじめ防止基本方針」策定の目的

いじめはどこの学校や集団にも、どの児童生徒にも起こりうる問題であり、いじめを次に示す定義のように捉えることは、いじめの行為があったかどうかを学校が判断し、法的な責任を負うことをねらいとするものでなく、いじめられている児童生徒の救済を第一にして対応するものです。そのために、学校は一人ひとりの児童生徒との信頼関係を築きながら、いじめの未然防止、早期発見・早期対応に取り組むために「学校いじめ防止基本方針」を改訂します。

3 いじめの定義

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものを含む。)であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいいます。

4 学校が実施する取組

(1) いじめの未然防止の取組

いじめを未然防止するには、いじめが発生しにくい学校の風土づくりが基本となります。教職員は児童生徒の理解を深め、信頼関係を築くとともに、一人ひとりを大切にしたい授業を実践するように努めます。また、あらゆる教育活動を通じて、他人を思いやる心や正義を重んじる心などの豊かな人間性をはぐくみます。

① 学校体制を確立し、環境を整備します

いじめは絶対に許されないという共通認識に立ち、全教職員で児童生徒を見守っていくためには、いじめの予兆や悩みがある児童生徒を見逃さないしくみづくりや、インターネット上のいじめの防止、問題解決のための組織づくりをするとともに、相談活動がしやすい環境づくりや教職員の計画的な研修の実施など、学校体制を確立します。

② 児童生徒の心を受け止められる感性を磨き、教職員としての人間性を高めます

教職員自身が児童生徒から信頼されるよう自己研鑽し、人間性を高めるよう努力することは教職員としての基本です。児童生徒を一人の人間として尊重し、児童生徒の気持ちを理解し、児童生徒と感動を共有することができるか、自分の心が一人ひとりの児童生徒に向かって開いているか、絶えず自問します。

③ 児童生徒一人ひとりが生きる教育活動と効果的な学習活動を実践します

学校生活の大半を占める授業を「学ぶ楽しさ」が味わえる充実した時間にすることで、児童生徒は前向きに学校生活を送ることができるようになります。また、学校行事や体験活動などを工夫し、充実を図ることで他者と深く関わる経験を重ね、他者への思いやりや対人スキルを身につけさせます。

④ 児童生徒の自浄力を育てます

児童生徒自身に「自浄力」を身につけさせることは、未然防止のなかでもっとも重要です。児童生徒の自主的、主体的な活動が、「いじめをやめさせたいと思う児童生徒」を育て、いじめを抑制します。自校に誇りをもたせ「自分たちの学校ではいじめは許されない」という気運を高めていきます。

(2) いじめの早期発見

いじめの発見が遅れると、いじめの内容がエスカレートするばかりでなく、関わっている児童生徒が増加して関係が複雑になり、解決が困難になります。「いじめは見ようとしなければ見えない」と言われます。深刻な事態を招かないためにも児童生徒のわずかな変化を手がかりに、早期発見に全力を尽くします。

① 日常のきめ細やかな観察をします

普段の授業における児童生徒の顔色や姿勢、学習態度などは、児童生徒の理解を深める大切な情報です。また、授業以外のさまざまな場面での言葉づかいや行動、表情、視線、声をかけたときの反応を観察します。

② 相談体制を整備します

学校における教育相談体制を確立し、児童生徒や保護者に啓発することによって、いじめられている児童生徒や周りの児童生徒が相談しやすい環境をつくります。

③ 定期的なアンケート・チェックシートを実施します

定期的な学校生活アンケートや教職員用のチェックシート等を活用し、児童生徒の状態や指導法を客観的に把握し、いじめの早期発見につなげていきます。

(3) 校内いじめ防止対策会議の設置

校内いじめ防止対策会議（以下、「対策会議」という）は、いじめの防止等の中核となる組織として、校務分掌に位置づけ、「学校基本方針」に基づく取組の実施や具体的な年間計画の作成・実行・検証・修正等を定期的（いじめを認知した場合には状況に応じて）に行い、校内いじめ対策ケース会議の情報の集約と共有をします。

(4) いじめへの対処

いじめの対応を担任一人だけで行うと、解決を遅らせ事態を悪化させる恐れがあります。いじめを認知した、またはその疑いがあった時点で全教職員に周知し、多方面からの確・迅速に対応する必要があります。さらに保護者への対応についても誠意を尽くし、問題解決に向けて信頼関係と協力体制を確立します。

① 校内いじめ対策ケース会議の立ち上げ

いじめの疑いがある情報があったときには、管理職、及び児童生徒指導担当者・支援教育コーディネーター等と当該事案に関わりのある教職員で構成された校内いじめ対策ケース会議（以下「ケース会議」という）を迅速に立ち上げ、個人情報に配慮しながら、いじめに関する情報の収集と情報共有、事実確認の方法や役割分担の確認、対応方針及び支援・指導体制の決定をし、解決に向けた支援・指導を行い、保護者との連携を管理職のリーダーシップのもと組織的に実施します。また、状況に応じて当該事案の対応方針及び支援・指導体制等の見直しを行います。

② いじめられた児童生徒への支援

- もっとも信頼関係ができていない教職員が対応し、「最後まで絶対に守る」という意思を伝えます。
- 児童生徒の意向を汲みながら、学校生活の具体的なプラン(登下校の方法など)を立てます。
- 心のケアや登下校・休み時間の見守りなど、安全で安心できる環境づくりに努めます。

③ いじめた児童生徒への指導

- よく事情を聞き、いかなる事情があっても、いじめることはいけないことだと教え、同じことを繰り返さないようにします。
- いじめた行為そのものは、よくないことと理解させつつ、相手に対して心身の苦痛を与えるような結果になってしまった理由を考えさせ、どこがいけなかったのか、どうしたらよかったのかを考えさせます。
- いじめに至った要因や背景を踏まえ、立ち直りに向けた相談活動や指導を継続的に行います。

④ 周囲の児童生徒への指導

- はやしたてたり、見て見ぬふりをしたりするのは、いじているのと同じだということを理解させます。
- いじめを防ぐことができなかったことを見つめなおさせ、再発を防ぐための具体的な手立てを指導します。
- 必要に応じて学級、学年さらに学校全体に広げて再発防止へ向けた指導を行います。

⑤ 保護者への対応

- いじめに関係した児童生徒の保護者には迅速に事実を伝え、ケース会議で決定した指導方針と対応策を示すとともに、いじめ解消に向けて協力を要請します。
- 解消するまで学校が主体性を発揮し、解消後も定期的に児童生徒の学校や家庭での様子を保護者と情報交換し、経過観察を行います。

5 重大事態への対処

(1) 重大事態の意味

次に掲げる場合を重大事態といたします。

- ① いじめにより児童生徒の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき。
- ② いじめにより児童生徒が相当の期間、学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき。
「いじめにより」とは、①②に規定する児童生徒の状況に至る要因が当該児童生徒に対して行われるいじめにあることを意味します。
①の「生命、心身又は財産に重大な被害」については、いじめを受ける児童生徒の状況に着目して判断します。例えば、
 - 児童生徒が自殺を企図した場合
 - 身体に重大な傷害を負った場合

- 金品等に重大な被害を被った場合
 - 精神性の疾患を発症した場合
- などのケースが想定されます。

②の「相当の期間」については、不登校の定義を踏まえ、年間30日を目安とします。

ただし、児童生徒が一定期間、連続して欠席しているような場合には、上記目安にかかわらず、教育委員会又は学校の判断により、迅速に調査に着手します。

また、児童生徒や保護者からいじめにより重大に被害が生じたという申し立てがあったときは、その時点で学校が「いじめの結果ではない」あるいは「重大事態とはいえない」と考えたとしても、重大事態が発生したものとして報告・調査等に当たります。

(2) 事実関係を明確にするための調査の実施

学校は、重大事態に至る要因となったいじめ行為が、いつ（いつ頃から）、誰から行われ、どのような態様であったか、いじめを生んだ背景事情や児童生徒の人間関係にどのような問題があったか、学校・教職員がどのように対応したかなど事実関係を、可能な限り網羅的に明確にします。

なおこの調査は、民事・刑事上の責任追及やその他の争訟等への対応を直接の目的とするものでないことは言うまでもなく、学校が事実に向き合うことで、当該事態への対処や同種の事態の発生防止を図るものです。

6 令和8年度 いじめ防止対策組織・役割分担

【校内いじめ防止対策会議の構成】（校務分掌に位置付ける）

校長、教頭、総括教諭、教務主任、学年主任、生徒指導担当、道徳主任、特別活動主任
 支援教育コーディネーター（CO）、養護教諭、スクールカウンセラー、
 スクールソーシャルワーカー（要請による派遣）

【いじめ防止対策の企画・運営】

- ・学校運営（学校評価）におけるいじめ防止に関する目標の設定・検証・・・（生徒指導担当）
- ・いじめ防止対策年間指導計画の作成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（生徒指導担当）
- ・いじめ防止指導研修会の企画、運営・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（生徒指導担当）
- ・いじめ問題に関する資料の管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（生徒指導担当）
- ・道徳教育との連携・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（道徳主任、生徒指導担当）
- ・学校いじめ防止基本方針の見直し・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（全委員）

【教育相談】

- ・教育相談のねらい・年間計画の作成・・・・・・・・・・・・・・・・（学年主任、生徒指導担当）
- ・相談室窓口、相談室の管理、運営・・・・・・・・・・・・・・・・（CO、生徒指導担当）
- ・スクールカウンセラーとの連携・・・・・・・・・・・・・・・・（CO、養護教諭、生徒指導担当）

【生徒・保護者・地域との連携】

- ・生徒会本部・生活委員会との連携・・・・・・・・・・・・・・・・（特別活動主任、生徒指導担当）
- ・PTA校外委員会との連携・・・・・・・・・・・・・・・・（生徒指導担当、CO）
- ・地域教育会議との連携・・・・・・・・・・・・・・・・（教務主任、生徒指導担当）

【関係機関との連携】

- ・警察との連携・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（生徒指導担当）
- ・児童相談所との連携・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（教頭、生徒指導担当）

7 令和8年度 いじめ防止等対策年間計画

月	活 動 内 容 (校内いじめ防止対策会議・児童生徒指導部会・職員会議等)
4	<ul style="list-style-type: none"> ・基本方針・重点目標の確認 ・構成員の確認・役割分担 ・年間指導計画確認 ・いじめの未然防止、早期発見・早期対応方法等についての研修
5	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・かわさき共生*共育プログラムの実施① ・第1回教育相談実施
6	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・第1回教育相談実施 ・かわさき共生*共育プログラムの実施② <p>【児童生徒指導点検強化月間】の取組 (具体的な内容→教育相談の結果から個別に支援につなげる)</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・SNS講演会 ・夏休み期間中の対応確認
8	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・第1回学校生活アンケート実施 ・不審者に関する研修会
9	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・かわさき共生*共育プログラムの実施③ ・前期の反省とまとめと後期の具体的な取組の確認
10	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・三者面談の実施
11	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・かわさき共生*共育プログラムの実施④
12	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・小中合同研修会の実施の確認
1	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・小中合同研修会の実施 ・第2回学校生活アンケート実施 ・第2回教育相談週間の実施
2	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・第2回教育相談週間の実施 ・今年度の反省→学校評価への反映 <p>【学校体制振り返り月間】の取組 (具体的な内容→管理職とともに現体制の確認)</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・来年度に向けての基本方針の見直し

◎本校のいじめ防止に向けた取組

生徒の自主的な取組

[自主的な企画・運営]

- ・学年集会・生徒集会を企画運営する。人間関係づくりのレクリエーションを行う。
- ・あいさつ運動やクリーン活動を行う。
- ・リーダー研修会

[交流活動の活性化]

- ・年間を通した縦割りブロック活動を行う。
- ・委員会活動を自主的に進めていく。
- ・町内会・子ども会など地域行事での交流活動を行う。

[啓発活動]

- ・いじめ防止標語やポスターの作成、いじめ撲滅のキャンペーンを実施する。
- ・生徒会年間テーマを設定し掲示する。

保護者の取組（PTA 活動）

- ・広報誌での呼びかけ
- ・各学校行事での運営参加

地域住民の取組

- ・地域教育会議の活動
- ・地域での見守り活動
- ・お祭りや盆踊りでのパトロール活動を行う。